

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192800053		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	トゥルーケアGHなでしこ		
所在地	埼玉県入間市大字下藤沢635-25		
自己評価作成日	令和5年3月7日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員で、利用者様が強要されない普通の生活を送ることが出来るという理念の元、日々実践しています。特に利用者様一人ひとりがなじみの生活ができるよう、またご自身にあった生活リハビリを実施しており、残存機能維持にも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・入居者が自由に気ままに自主的な生活を送っていただけるケアを理念に利用者一人ひとりの生活をより豊かにするよう努めている。職員の定着率が極めて高く、業務に慣れた職員が多いことで、コロナ罹患の際にも対策が十分取られ、入居者・家族からの安心感、信頼感に繋がられている。職員からは「介護職の楽しさが感じられる職場」との声もあり、事業所内では研修会の強化や面会方法の工夫などに取り組み、入居者、家族、職員のストレス緩和が図られている。  
 ・運営推進会議については、文書により事業所の取り組みや入居者の状況を報告し、参加の家族からはワクチン接種などへの意見が出され、対応すると同時に運営にも活かされている。  
 ・目標達成計画についても、令和3年度は厚生労働省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策で訓練を実施する中、出来るだけ多くの職員が参加できるよう調整を図り、実施できたことから、目標の達成が伺えられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の大切さを管理者や職員全員で共有し、利用者一人ひとりの生活をより豊かにするよう努めている。	入居者が自由に気ままに自主的な生活を送っていただけるケアを理念に謳い、一人ひとりの入居者に好きなことが提供されるよう努められている。理念は玄関に掲示され、入職時のオリエンテーションでは周知が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスのため、地域交流は中止しているが、終息した後、近隣の散歩や行事を通して交流を考えている。	地域とのつきあいは少なくなっているが、散歩コースにお住いの方より桜の花がプレゼントされるなど気にかけていただいている。また、近隣の方より介護相談や悩み事を聴いたりしたことあり、見学も受け入れて喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスのため、地域交流は中止しているが、終息した後、利用者様と一緒にレクやお話し相手のボランティア募集を募集したり外出行事で地域の方との関わりでホームを理解してもらえるようにする		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスのため、運営推進会議は中止しているが、お知らせ等定期的にご家族様に送っている。また定期的に家族面談を行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在は文書方式をとり、事業所の取り組みについて報告され、家族からは意見も出していたが、今後のサービス向上に繋がっている。また、これからの開催についても集合形式を視野に入れ、より良い会議となるよう検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題が発生したり、疑問がある場合は高齢者支援課に連絡しアドバイスを頂いたり地域支援包括センターの職員の方に報告している。	地域包括支援センター主催で市担当者も参加される「地域の認知症声掛け訓練」や「つながろう入間」の取組みには継続して参加するなど協力関係が築かれている。日常的にはメールで市からの情報が届き、不明な点は問合せされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会や研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」ことを前提に、職員への研修に力を入れ、虐待や感染症防止なども題材に取り上げられている。入居者が興奮された時などには、職員は冷静に対応し、家族にも相談して病院への受診も含めて対応されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待防止対策検討委員会や研修を行い、虐待が起こらないよう注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見人を付けている御利用者はいないので身近に感じにくいですが、今後は職場全体で制度の理解、研修等を行うよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問があった場合にはその都度時間をかけ丁寧に説明し理解していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々苦情、相談窓口を設け対応している。その内容をケアカンファレンスや全体会議で反映させている。	入居者からは「新聞を購読したい」、「雑誌：婦人公論が読みたい」などの希望が出され、書店に出かける対応がなされている。家族からの「家に帰らせたい」との要望には「通院の途中、疲れたから家に少し寄る」といった形で応えるなど、様々な工夫も図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き入れ対応しているが、全体会議やフロア会議での意見を反映させる場を設けている。	季節の行事やイベント企画だけでなく、現場の職員の声は業務に反映され、「現場中心の考え」が徹底されている。職員からは「なんでも言いやすい環境」との意見があり、ストレス緩和にも繋がられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員自身にスタッフ評価シートを記入してもらい、それを元に管理者や職員個々の勤務状況に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部研修や外部研修の参加を促して、年間を通して参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に近隣の施設への訪問を行い情報交換の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を重視し、話やすい環境作り、温かい態度で本人の話を聴くことで困っていること、不安を受けとめるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の際にかならず御家族様のお気持ちを伺っている。出来るだけ要望を聞くように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これからの生活の在り方を本人、家族と話し合い、一番良いサービスを共に模索出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を徐々に広げながら、共に生活をしていることを意識して信頼関係を築いていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時に何気ない会話から徐々に信頼関係を深めている。また月に1度お便りを送り近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも御家族や旧友、近所の方々の来訪を歓迎しおり、関係が途切れないよう努めている。	馴染みの友人や遠い親戚が面会に来られることもあり、必ず家族の了解をとり、会っていただき関係継続への支援がなされている。また、昔馴染みのお手玉や切り絵を取り入れ、さらに音楽や映画などの思い出を楽しんでいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要あるなら利用者様同士コミュニケーションが取れるように、職員が間に入りサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も新たな入居施設等に郵便物の転送手続きも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で傾聴等で関わりを強く持つて対応、また職員は御利用者様の代弁できるような努めている。	日常の会話だけでなく、1対1で向き合う時間を設け、そこから思いや意向の把握がなされ、職員間で共有されている。出身地や職業、学校の話などをきっかけに「タクシーの運転手だった」とか「〇〇学校に通った」など、その方の生き方を理解するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や日々の関わりの中で把握し、なじみの生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼や申し送り等で情報を職員全体で共有し、御本人様のペースで生活出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意向をふまえ、3ヶ月ごとのケアプラン見直しで意見交換し、入居者ひとりひとりに合った介護計画作成に努めている。	個々の入居者に対して総合的な援助方針を明確に記載し、わかりやすく具体的な表現のケアプランが作成されている。プランの支援内容を番号化し確認することで、日々の暮らし方が見えるようになり、現状に即した計画に繋がられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化に対する記録は徹底しており、朝礼や申し送りノートの活用など職員全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応はもちろん、その他は要望に応じて柔軟迅速に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会紹介のボランティアや市内の傾聴ボランティア団体等を活用し地域での生活を楽しむことができるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて訪問診療以外にも診て頂いている。入居者に変化があった時は主治医に指示を頂き、受診の付き添いを行っている。	かかりつけ医への受診には職員が同行することが多く、直接医師と話すことで理解が深まり、適切なサービスが受けられている。受診後は受診結果報告書や申し送りノートで職員、訪問看護師、往診医に報告され、周知と連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護あり、体調の変化があった場合は電話で24時間相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療の出来る協力病院があり、定期的に病院関係者と情報交換を行い緊急時対応等に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の際に重度化した時の同意書を交わしており、本人様が重度化になった場合は日々をより暮らせるよう医療と連携を図り対応に努めている。	重度化や終末期については同意書を交わし、状態の変化に応じてその都度家族と医師との話し合いを重ね、方針の共有と支援方法が確認されている。訪問看護が入ることで看取り対応も可能であり、入居者・家族の安心に繋がられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつでも閲覧可能な場所に緊急時のマニュアルを置き、また定期的に救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を反復して身に付けて行っている。また、町会に加入したり運営推進会議などで、地域との交流をはかっている。	周囲の環境から火災と水害を重点災害にとらえて、消防署とも連絡を取りながら水平避難、垂直避難の方法の訓練が実施されている。また、夜間避難の訓練も行われ、課題を見つけ、それらを解決するための対策の検討もなされている。	夜間想定避難訓練を行うことで「マンパワーの必要性」、「連絡網をどう活用するか」などの課題が見つかったことから、それらをどう解決するか、対策作りに取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様に対応には、親しみをもちつつも言動や対応に気を付けている。	人格の尊重、プライバシーの確保に加え、個人情報取り扱いなどについて、職員全員に周知されるよう取り組まれている。食事や入浴時間も個人のペースに合わせて対応し、また、トイレ誘導時の声掛けなどにも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一同が御利用者様との会話を大切にして、その思い、希望を受け止め出来る限り自己決定に至るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の行いたいことを理解し、その気持ちを大切に自身のペースで生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれはその方の表現でもあり大切と捉えています。季節にあった服と一緒に選び気持ちよく過ごして頂く。また2ヶ月に1度美容師が来苑されます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理に加わったり、味見をしたり盛り付けの工夫をしたりと和やかにしている。	盛り付けや味見、食器洗いなどには入居者が参加され、行事の時などはリクエストに合わせて、外食は無理だが買い物をして応えられている。食事以外にはおやつ作りなども入居者と一緒に行い、手作りケーキを作るなどして楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量を記録に残し職員全体で把握をしている。また食べやすい調理方や盛り付け方にも工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お声をかけ対応している。自力では難しい方には介助を行っている、また毎日就寝時は義歯を預かり洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、出来るだけご自身で排泄出来るよう努めている。	一人ひとり異なる排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に介護計画にも取り入れられ、自立に向けた支援が行われている。しぐさや様子が落ち着かない時などには声掛けを行い、出来るだけ自身で排泄できるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の活動に散歩や掃除など運動不足解消や水分摂取量に気をつけて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があった場合は時間を置いてお声をかけている。本人の意向を大切にゆったりと入浴出来るよう心掛けている。	安全確保の面から、シャワー浴の入居者もおられるが、職員が二人対応して湯船に入ってもらえるケースも見られる。入浴拒否の時には家族に付添っていただいたこともあり、入居者の意思やペースを守りながら入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の場合はさりげない声掛けで日中の活動時間を少し長く過ごしていただけるよう工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服薬しているお薬の効果や副作用等の情報は職員全体で共有している。また変更があった場合は申し送りや記録の徹底化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を大切に、また利用者合同で楽しむことも大事と思い支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はほぼ毎日行っている。不定期ではあるが、買い物レクや近くの喫茶店にも行き楽しんでいただいている。	玄関先での外気浴、ドライブによる花見、駐車場では体操や太極拳などが続けられている。制限はあるものの、病院受診の際に、一時自宅に立ち寄りいただくなど柔軟な支援が行われている。	コロナ禍による制限が少しずつ緩和される中で、コロナ前の状態に目を向け、外出頻度を増やし、入居者・家族の要望に添えていかれることに期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるため利用者様のお金はお小遣いとして事務所の金庫に管理している。希望に沿って一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して好きな時に連絡を取れる利用者様もおられ、家族からの電話や手紙のやり取りも出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けを行い、そこからコミュニケーションが弾むように演出をしている。また本人様の創作意欲が上がるように展示物を掲示している。	共用空間のリビングに集まることが多く、TVを視たり、レクレーションを楽しみ、世間話をするなど、居心地良く過ごされている。入居者の笑顔の写真、習字の作品などが飾られ、それらをもとに入居者と話し、意欲の向上につながるよう支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がくつろげるようなスペースを作り気の合った利用者様同士で思いを過ごせるように演出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や小物類など、なじみの物を持って来てもらうことによって、今までの生活に近づけるように心掛けている。	居室は自宅の延長と感じられるように家具の配置や馴染みの物を飾るなどの気配りがなされている。TVやラジオだけでなく、携帯電話やポケットWi-Fiなどを利用される入居者もおられ、居室では自由に過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう各居室に表札を付けたり、手すりの設置等工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名: トウルーケアGHなでしこ

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 5月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間訓練は年1度は行っているが、緊急連絡網を上手く活用できるか不安がある。	夜間中に火災や地震、水害等からの災害に対し、緊急連絡網の活用を行い、避難誘導を円滑に行えるようにする。	多くの職員ができるよう、夜間避難計画を調整する。同時に、消防署員をお招きして評価をしていただく。	12ヶ月
2	49	コロナ禍による制限があったため、外出を控えることにより、認知機能低下や下肢筋力低下が心配である。またご家族様との面談は行っているが、時間制限などあり、ご家族の要望にすべて応えているとは言い難い。	コロナ禍による制限が少しずつ緩和されているので、様子を見ながらだが、散歩等はコロナ前の状況に戻したい。また、ご家族様の要望には今以上に応えていきたい。	毎月散歩ができる日を設定する。また、様子を見ながらだが、一時帰宅を今以上に多く行ない、家族やその他親類、知人等となじみの関係を強化できるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。